

第4回 神在月 石見の神紙が舞う

石州和紙デザインコンペ

優秀作品展 開催!

10月24日(火)～11月26日(日)

今年で4回目を迎える『神在月(かみありづき)石見の神紙(かみがみ)が舞う石州和紙デザインコンペ』の優秀作品を集めた作品展が石州和紙会館にて10月24日～11月26日の間開催される。【主催…芸術と文化のまちづくり事業実行委員会】今年には受賞した作品7点を含む39点を展示する。今年のテーマは「石州和紙を活かしたもの」。パッケージデザインナーの埼玉雄氏(審査委員長)、しまね産業振興財団技術振興アドバイザーの東紀孝氏(審査員)、ユネスコ無形文化遺産石州半紙PR大使の千葉すずさん(特別審査員)らを迎えて審査を行い、受賞作品が



審査の様子

決定した。今年は例年よりも審査が長引き「確実に作品のレベルが上がってきている」という声も審査員の中からこぼれるほどであった。その中でも山城和晃【神奈川県】「アシンメトリーバッグ」が「中国経済産業局長賞」を受賞した。この作品は、脱構築主義の建築をモチーフとして曲率の違う曲線を平行して使っ

ている。それにより、異なった曲線の形が隣接して調和している有機的な形状になるデザインのバッグである。強度を上げるためにこんにやく糊を塗布した石州和紙を使用して制作しており、とても丈夫そうである。



「アシンメトリーバッグ」

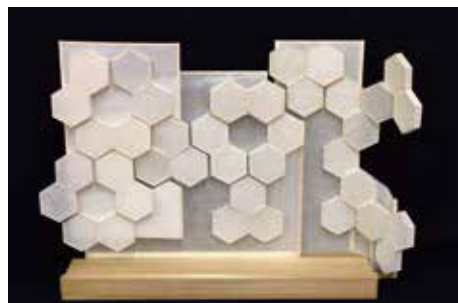
「しまね産業振興財団理事長賞」に輝いたのは朝田千佳子さん【北海道】の「紙布織り通帳入れ」である。「現代において和紙はデリケートで特別なものと

思われているが、丈夫な石州和紙を使い、普段、普通に使ってもらえそうなものを作った」と朝田さんは制作意図に記した。経糸はリトアニアリネンを使用し、緯糸には石州和紙とリトアニアリネンを織り込んでいます。



「紙布織り通帳入れ」

「石州和紙会館館長賞」に選ばれたのは、原亮朋さん【広島県】の『石州和紙造り六角現代付書院』だ。暮らしの中で和紙の魅力を再発見するために、現在の住宅で大半を占める洋室に相応しい製品を創りたいという思いで出品された。日本的な美をもち、空間アクセントとしてこの作品には存在感を感じる。



「石州和紙造り六角現代付書院」

そして、水澄みの里賞を受賞したのは、グループ saku-saku (瀧川・原)【島根県】の『和紙づくしの絵本』。とにかく和紙づくしの絵本である。赤ちゃん、幼児、学生にとっては楽しい絵本として、大人にとつては絵本のような見本帖として、どの世代にも楽しんでもらえるように制作したと作者たちは語っており、とても温かみのある作品だ。



「和紙づくしの絵本」

「石州半紙技術者会長賞」は滋賀県立大学山田研究室【滋賀県】の「島根県浜田市を元気にする魚拓DM」だ。地域資源である石州和紙と海産物の双方を活かした、島根の魅力伝えるプロモーションツールとなり、石州和紙のビジネス利用を拡大させると同時に、島根の観光産業を活性化させることを目指すという意図だ。

その他にも、石州和紙協同組合代表理事賞に選ばれた和紙クラフト工房紙遊【浜田市】の「つるしちゃん」。この作品は、石州和紙のこよりにマグネットを包んであり、マグネットに挟むことで、色々なものを吊るという仕組みだ。

そして、千葉すず賞には森川勇さん【浜田市】の「和糸点字」が選ばれた。和紙の手触りや暖か味をより多くの人に知ってもらいたいという思いから制作された。

この他にも、全国より集まった作品が石州和紙会館で展示されている。是非足を運んで石州和紙の可能性を見て欲しい。